

モロッコ零細漁業改良普及システム整備計画

運営指導調査団

報告書

平成 14 年 4 月
(2002 年 4 月)

国際協力事業団

自然水

JR

02-025

モロッコ零細漁業改良普及システム整備計画

運営指導調査団

報告書

平成 14 年 4 月
(2002 年 4 月)

国際協力事業団

序文

国際協力事業団は、モロッコ王国からの技術協力の要請を受け、平成13年6月から同国においてモロッコ零細漁業改良普及システム整備計画を開始しました。

この度、当事業団は、本計画の今後の協力計画を協議・検討するため、平成14年3月1日から3月10日まで、東京水産大学 桜本和美 助教授を団長とするプロジェクト運営指導調査団を同国に派遣しました。調査団はモロッコ王国政府関係者や派遣専門家と協議を行うとともに、プロジェクト・サイトでの現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て調査結果を本報告書に取りまとめました。

今回の調査・協議の結果が本計画の協力目標達成に役立つとともに、この技術協力事業の実施が、今後の両国の友好・親善の一層の発展に寄与することを期待いたします。

終わりに、プロジェクトの実施にご協力とご支援をくださった関係者の皆様に対し、心からの感謝の意を表します。

平成14年4月

国際協力事業団
森林・自然環境協力部
部長 宮川 秀樹

地図



目次

序文

地図

1. 運営指導調査団の派遣	1
1-1 要請の背景	1
1-2 プロジェクト概要	1
1-3 調査団の派遣目的	3
1-4 調査団の構成	3
1-5 調査日程	3
1-6 要面談者	4
2. プロジェクト実施体制	5
3. 活動の進捗状況	5
4. 活動上の留意点	6
5. 総括	7

付属資料

別添1 実施体制図	13
別添2 PDM	14
別添3 プロジェクト活動概要	16
別添4 ミニッツ	17

1. 運営指導調査団の派遣

1-1 要請の背景

モロッコ王国政府は地域間の所得格差の是正及び漁業資源の保全を重要政策課題としており、その中で、水産セクター（担当官庁、漁業省）では零細漁民の人材育成の施策が取られている。しかしながら、モロッコ王国に水産分野の普及員制度がないことから、これまで零細漁民への普及事業は行われてこなかった。そこでモロッコ王国に適した新たな普及システムを開発し、普及員が効率的に普及活動が行えるための普及プログラムの開発に係るプロジェクト方式技術協力を我が国に対し要請してきた。

これを受け、我が国は平成 12 年 3 月に事前調査団及び平成 12 年 10 月に短期調査団を派遣し、モロッコ側と協力内容について協議を行った。平成 13 年 3 月にモロッコ側との合意のもと討議議事録（R/D）の署名を行い、平成 13 年 6 月より 5 年間にわたる協力が開始されている。

プロジェクト開始後の平成 13 年 9 月から 11 月の期間にかけて、ベースライン調査を実施した結果、零細漁民の漁家状況が明らかになってきたとともに、プロジェクトの将来方針が定まってきた。

本調査は、ベースライン調査結果及び現地調査・協議結果に基づき、プロジェクトの運営及び詳細実施計画策定への助言等を目的として実施された。

1-2 プロジェクト概要

(1) 上位目標

零細漁民（男女）の社会・経済状況の向上及び沿岸漁業資源を保全する。

(2) プロジェクト目標

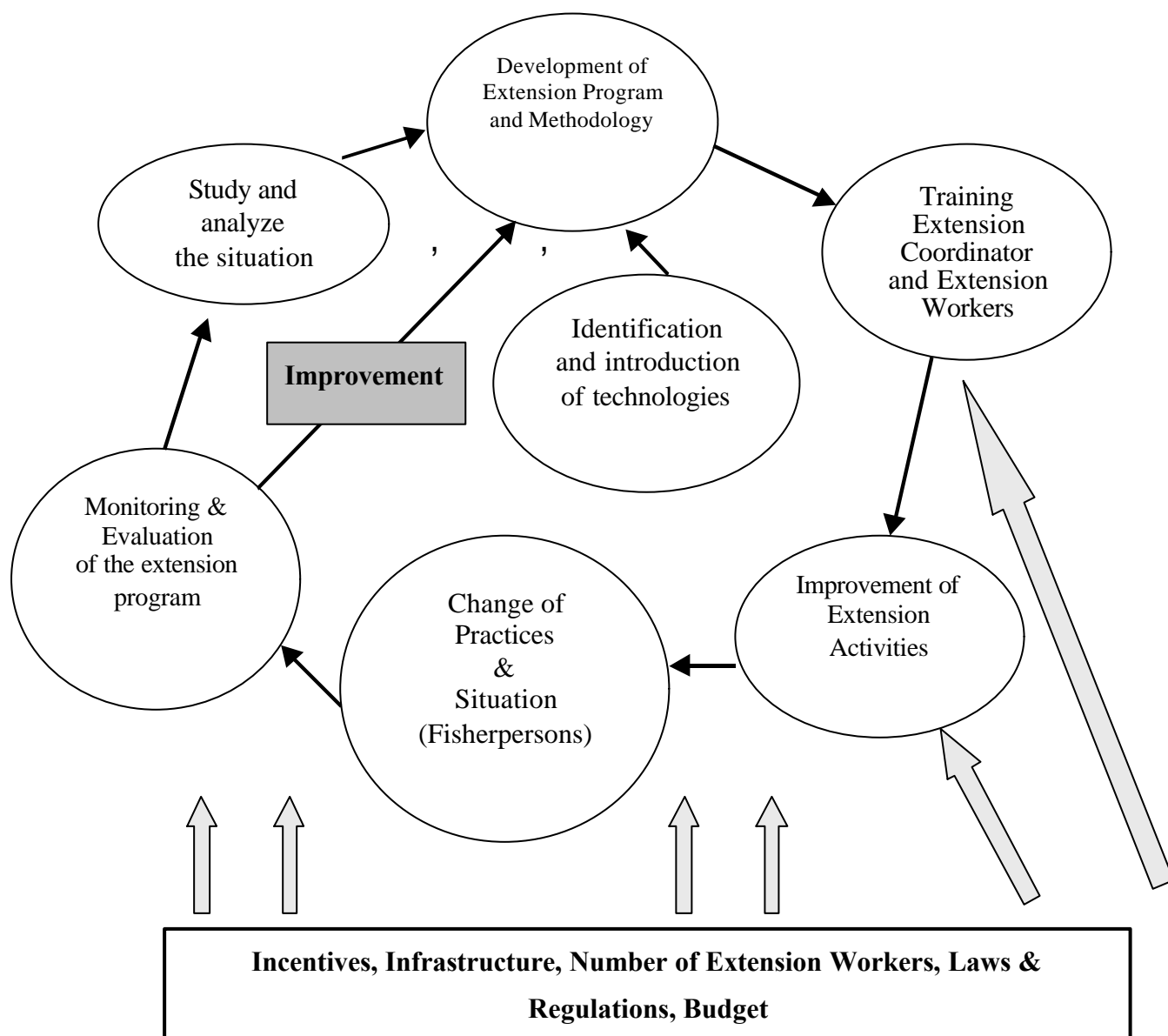
漁村において効率的な普及活動が行われ、確立された普及システムが、国家プロジェクトとして策定される。

(3) 成果

- 1) 零細漁民（男女）の漁家状況（漁業形態、資源、生活状況）が明らかになる。
- 2) 零細漁民（男女）へ普及するテーマごとの普及プログラムが作成される。
- 3) 普及員を養成するカリキュラム・教材が作成され、普及コーディネーター及び普及員の技術能力が向上する。
- 4) 漁村において普及活動が展開される。

5) 普及活動のモニタリング・評価、フィードバックメカニズムが構築される。

本プロジェクトにおける普及システムとは、「特定課題に係る零細漁業の現状と問題分析」「普及プログラム(事業計画・手法・教材等)の開発」「普及員訓練」「普及活動」「普及プログラムのモニタリング・評価」「別・新課題の問題分析」「別・新課題の普及プログラムの開発」と言う一連の循環のことである。この循環を効率的に実施するために、漁業省では必要なインフラ、普及員、法整備や予算を確保していく。



1-3 調査団の派遣目的

- (1) 現在までのプロジェクト活動状況及び問題点について調査し、指導・助言を行う。
- (2) 相手国側の実施体制（予算、人員、施設整備状況、関連機関の連絡体制等）及び負担事項（ローカルコスト、C/P 配置）について確認し、問題点があれば相手国側と協議する。
- (3) プロジェクトのプロジェクト・デザイン・マトリクス（PDM）、活動計画（PO）、年間活動計画（APO）、モニタリング・評価計画書を作成し、関係者と署名・交換する。

1-4 調査団の構成

担当分野	氏名	現職
総括/団長	桜本 和美	東京水産大学 資源管理学科 助教授
普及システム	加瀬 和俊	東京大学 社会科学研究所 教授
計画管理	佐藤 吉洋	国際協力事業団 森林・自然環境協力部 水産環境協力課

1-5 調査日程：2002年3月1日から3月10日（10日間）

月日	曜日	内容
3/1	金	東京 パリ（JAL405/11:00-15:40）
3/2	土	パリ ラバト（AF2958/09:35-11:30）
3/3	日	ラバト水産市場調査 プロジェクトとの事前打ち合わせ及び協議
3/4	月	JICA 事務所打合 / 日本大使館訪問 漁業省海洋教育社会職業推進局表敬及び協議 移動（ラバト ララシュ）
3/5	火	ララシュ漁業技術訓練センター施設見学 専門家及びC/Pとの協議
3/6	水	漁村調査、国立漁業研究センター早瀬専門家との協議 移動（ララシュ ラバト）
3/7	木	漁業省海洋教育社会職業推進局との協議
3/8	金	ミニッツ署名 / 大使館報告 / JICA 事務所
3/9	土	ラバト パリ（AF2959/12:30-16:25） パリ（JAL7406:18:05-
3/10	日	東京（13:55）

1-6 主要面談者

(1) モロッコ側

漁業省

- ・ Mohamed Rhabaoui : 海洋教育社会職業推進局長
- ・ Ahmed EL Kouhen : 社会教育推進局部長
- ・ BELRHAZI Azedine : 社会教育推進局課長
- ・ Driss Meski : 協力・法務局長
- ・ EL ASRI Abdellah : プロジェクト担当

ララシュ漁業技術訓練センター (CQPM Larache)

- ・ AZAOUI Abdellah : 校長
- ・ NATAQ Ahmed : 副校長
- ・ AMMI Abdelilah
- ・ GUENNOUNI HASSANI Hamid
- ・ FATHI Driss
- ・ KERDOUNE Ibtissam

(2) 日本側

在モロッコ日本大使館

- ・ 佐藤 大使
- ・ 大竹 書記官

モロッコ零細漁業改良普及システム整備計画プロジェクト専門家

- ・ 吉田 専門家
- ・ 林 専門家
- ・ 服部 専門家

個別専門家

- ・ 小木曾 専門家 (漁業振興)
- ・ 早瀬 専門家 (水産資源評価/調査研究手法アドバイス)

JICA モロッコ事務所

- ・濱崎 所長
- ・吉澤 次長
- ・柴田 所員

2. プロジェクト実施体制（別添資料1参照）

モロッコ全土には123の零細漁村があり、8校の水産学校（ITPM AlHoseima, CQPM Larache, CQPM Casablanca, ITPM Safi, ISTPM Agadir, ITPM Tan Tan, CQPM Laayoune, CQPM Dhakla）が地方普及所を兼ねている。¹各学校には2名の普及員コーディネーター（V/C：Vulgarisater Coordinator）が配置されており、それぞれのV/Cが担当漁村で普及活動を行っている。これまで配置されているV/Cは全て男性であることから、今年度からは各学校に女性のV/Cも1名配置され、計24名のV/Cが普及活動を展開することとなる。

プロジェクト事務所はララシュ漁業技術訓練センター（CQPM Larache）内にあり、校舎は無償資金協力（1997年-1999年）によって建設された。CQPM Laracheは、水産学校としての役割と共に、全国普及センターとしての役割も担っている。日本人専門家は、普及システムを整備する長期カウンターパート及び、必要に応じて派遣される短期カウンターパートに対して技術指導を行い、一緒に普及システムを整備するものである。

3. 活動の進捗状況

（1）ベースライン調査の実施

2001年8月～11月にかけて、10漁村（Ras Kebdana, Oued Laou, Moulay Bouselham, Dar Bouazza, Souiria K'dima, Bhaibah, Tifnit, Sidi Boulfadail, Grizem, Belghazi）を選定し、零細漁民の状況を、漁村社会、ジェンダー、水産流通、水産資源、漁具・漁法、遊漁と観光の観点よりC/P自ら漁村へ赴き、個別アンケート調査、グループ聞き取り調査が行われた。

（2）ベースライン調査分析結果報告会

2001年11月9日に調査に参加した7名のC/Pが、社会経済、女性の活動支援、

¹ CQPM Laayoune と CQPM Dhakla については、西サハラに位置していることから、プロジェクトとして直接的な支援は出来ないが、V/Cが研修を受講することは可能である。

水産経済、水産流通経路、水産資源、漁民組織の分野において、漁民の現状を分析し、プロジェクトで今後どのような活動を行うべきか提言を行う報告会が開催された。それぞれ自分の責任で分析、報告書をまとめ、発表することによって、自分達の役割をより一層認識することが出来たようである。全員の報告書が一つの報告書としてまとめられ、調査に関わった関係者へ配布された。

4. 活動の留意点

今回のプロジェクトの目的は、普及活動を通じての零細漁業者の経済的・社会的地位の向上という最終目標ではなく、それに至る前提としての普及活動の機構づくりとその担い手・教材等の作成に設定されている。従って、普及員コーディネーターの研修の内容が重要な意味を持つ。ララシュでの漁業学校を見る限り漁業用諸機器類の設置状況、その担当教官の技術的習熟度には問題がないと考えられるので、主たる課題はソフト面、すなわち社会経済的な問題発見・解決能力の養成に向けた研修内容の徹底にあると考えられる。

そのためには、普及員コーディネーターを特定し、限定された研修期間だけでなく、少なくとも1か月に1度程度は専門家側から提出する特定の論題について報告書を提出してもらい、それを相互に検討し議論しあうといった習慣をつけることが望まれる。このためにも、プロジェクトのホームページを作成し、「研修者通信」といったページを設けて各人の提出した文章をそこに掲載し、討議しあう体制を直ちに作るべきである。

また全国から普及員コーディネーターを集めて実施する集団的研修についても、単に参加すればよいということではなく、一回ごとの研修の内容を確実に身につけるとともに、それが自らの問題発見・解決能力の向上につながると同時に、改良普及事業システムの構築に資するように、研修の最後に研修を受けて触発された視点、それにもとづく新たな指導構想等についての報告書を提出してもらい、それを直ちに、ホームページ上に公表するといった手立てが望まれる。こうした内容的な討議を習慣付けることは、官僚機構の形式主義の弊害を実質的に打破していくために重要であると思われる。

同時に、こうした座学的な研修によっては習得されにくい現場感覚をつけるために、各普及員コーディネーターに対して当人が担当している地区の中の典型的な零細漁村の1集落を定点観察地として割り当て、その動向を「零細漁村通信」といった内容で月に1回程度定期的に報告させ、ホームページにそれを

記載することも有効であろう。また全国的な研修に際しては、研修地周辺の漁村に全員で入って、その実態についての認識を研修者間で共有するとともに、普及員として確保すべき人々とその活動の仕方についてどのように考えるべきかを討議し、普及員コーディネーターが普及員機構の整備に向けて自ら構想を練り、関係部局を説得してその方向を実現させるための意欲と能力を持たせることが緊要であろう。

またプロジェクトの重要な一部となっている視聴覚教材作りに普及員コーディネーターおよび普及員候補者が積極的に関わり、実質的に自分達で作上げたと自覚できるような流れを作ることができればその効果は非常に大きいと思われる。

今回の短い調査期間においても、官僚機構の中枢に関して言えば、権限重複問題等に由来する部局間の意志疎通の不十分さ等が調査団・現地専門家の活動を制約し、その意欲を削ぐという事態に遭遇した。援助国の現地専門家を被援助国の官僚が見下すといった対応が、専門家の活動の心理的および实际的障害となっている面もなしとしないように見受けられる。とはいえ国家の統治・行政機構の性格の改変は、個別プロジェクトがよく成し得る課題ではなく、このプロジェクトでは、普及員コーディネーターの活動について中央官僚機構の理解を得た上で、研修内容については零細漁村側に目を向けた内容的な努力に集中し、両国のプロジェクト関係者が達成感をもって課題に取り組むことができるようにすることが望まれる。

5. 総括

本プロジェクトは2001年6月から実施され2002年3月1日の時点で9ヶ月が経過した。この間、日本側専門家が中心となり、精力的な現地調査が実施され、膨大な量のアンケートが収集されデータベース化されている。また、上記の調査結果をもとにモロッコ側カウンターパートとの間で綿密な検討が繰り返され、5年間のプロジェクト内容・スケジュールを明記したPDMが作成された。現時点までのプロジェクトの活動状況は概ね順調であり、その成果は十分に評価のできるものである。しかし、また一方でいくつかの解決すべき点も明らかになっている。以下にその概要を述べる。

(1) プロジェクトリーダーの長期不在

プロジェクトリーダーが長期にわたり不在であったため、現在活動している長期専門家への負担が増大している。また、リーダー不在のためモロッコ国漁業省とのコミュニケーションが必ずしも円滑に行われているとはいえない面が伺えた。以上のことから新しいプロジェクトリーダーの派遣は緊急かつ最重要課題であると考えられた。また、新しいプロジェクトリーダー着任後は、モロッコ国漁業省とプロジェクトリーダーおよび長期専門家が一堂に会し、今後の計画等について、再度詳細な確認作業を行う必要があると思われる。また、プロジェクトを円滑に推進するため、今後は定期的に上記のような会合をもつことが必要であろう。

(2) 移動教室用車両の供与について

この件については、今回の調査・協議の結果、JICA 本部の指針にそった形で、モロッコ国漁業省と合意ができたものと考えている。しかし、モロッコ国漁業省に対して、移動教室用車両の必要性、詳細な使用計画等の提出を求めることは当然であるとしても、移動教室用車両の必要性は事前調査報告書でもモ側より指摘されていること、また、移動教室用車両を用いた普及活動は今回の普及システムの大きな柱をなすものであること等から考えて、移動教室用車両は早急に供与する方向で検討すべきであると思われる。

(3) 継続性

プロジェクトの終了後も、モロッコ国が独自に活動を続けていくことが可能か否か、すなわち、『継続性』がプロジェクトの成果としてかなり重要視されている。そのこと自体に問題はないが、『継続性』が重視されているわりには、『継続性』の定義が不明確な印象を受けた。たとえば、現在の考え方では、プロジェクトの終了後もプロジェクト実施時と同程度の規模の活動が行われることをもって『継続性』が達成されたことが認定される構造になっているように思われるが、必ずしも、規模が同じでなくても、『継続性』が達成されたと認められる場合もあると思われる。

(4) その他

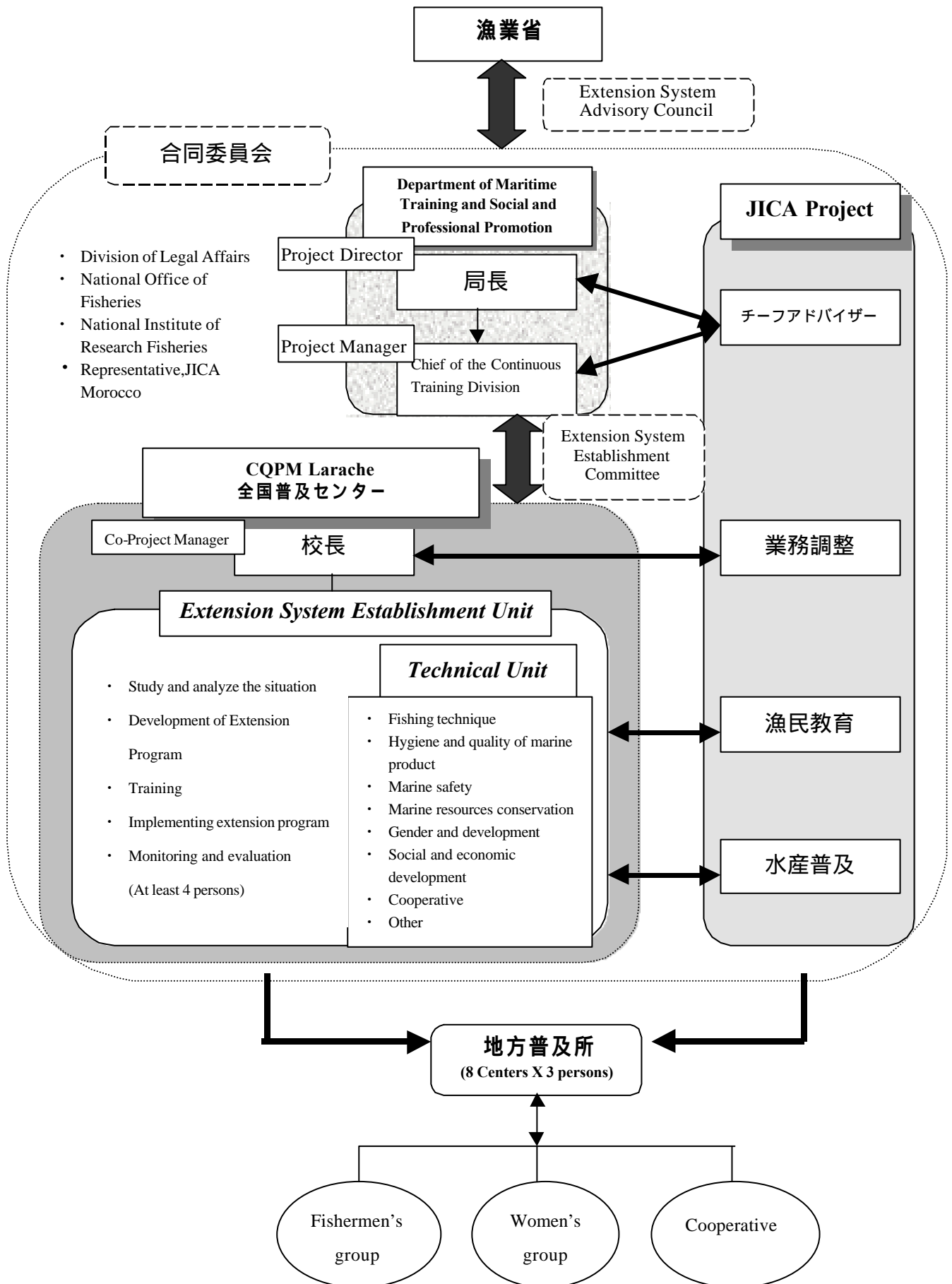
この問題は本プロジェクトに直接関係する問題ではないが、JICA のプロジェ

クト方式技術協力が独立して実施されるというスタイルについては再考を要すると思われる。現行の JICA のプロジェクト方式技術協力では同じモロッコ国の水産関係のプロジェクトであっても、それぞれが独立しており、独自にプロジェクトがすすめられている。プロジェクトの開始時期、実施場所が異なるため、現実的には各々独立にプロジェクトをすすめて行かなければならない面は当然あるとしても、概念的には、『モロッコ水産プロジェクト』という一つの大きなプロジェクトがあり、各々のプロジェクトはその中の 1 つのパーツとして考えるべきであると思われる。総合的な『モロッコ水産プロジェクト』の方向性をベースとし、その上でお互いの連携を密にしながら協力体制を整備し、相互に意見交換ができる場を設けるべきであると思われる。

付属資料

- 別添 1 実施体制図
- 別添 2 PDM
- 別添 3 プロジェクト活動概要
- 別添 4 ミニッツ（英・仏）

別添1：実施体制図



別添2: PDM

プロジェクト対象地域: 18名(6校 X3名)の普及員コ－ディネーター(V/C)が選定した12-18サイト

ターゲットグループ: 零細漁民(男女)

作成日: 2002年3月8日

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p>【上位目標】 零細漁民(男女)の社会・経済状況の向上及び沿岸漁業資源を保全する。</p>	<p>1. 2010年までに、地域間の所得格差が是正される。 2. 2010年までに、沿岸漁業資源に関する知識が指導・啓蒙される。(指標明細A)</p>	<p>1. 漁業5か年計画 2. 普及プログラム(漁業資源)の活動記録 ・技術現地適応化/女性グループ活動促進進歩事業における、漁業資源の活動事例記録 ・V/C 指導報告書</p>	<p>・零細漁民(男女)の生活環境に大きな変化が生じない。 ・漁業者が沿岸漁業資源に関する他の取組も同時に実施される。</p>
<p>【プロジェクト目標】 漁村において効率的な普及システムが構築され、普及活動が行われる。</p>	<p>1. 選定サイトにおいて活発に活動を行っているグループの数が増える。(指標明細B) 2. モロッコ政府の普及分野の予算措置と予算執行状況が、プロジェクト開始時に比べ増加する。 3. モロッコ政府独自で実施した普及活動数が、プロジェクト開始時に比べ増加する。</p>	<p>1. 漁民への聞き取り調査 ・ V/C 指導報告書 ・ 漁民による自己診断 2. 漁業省会計報告 3. 漁業省普及活動計画書</p>	<p>・漁業省がプロジェクト成果を生かし、普及制度を整備する。</p>
<p>【成果】 1. 零細漁民(男女)の漁家状況(漁業形態、資源、生活状況等)が明らかになる。</p>	<p>1. 零細漁民の実態及びニーズに合った普及テーマが選定される。(指標明細C)</p>	<p>1. 漁村調査報告書 ・アンケート調査データ・ベース ・活動計画(PO, APO) ・V/C 指導報告書 ・漁民への聞き取り</p>	
<p>2. 零細漁民(男女)へ普及するテーマごとの普及プログラムが作成される。</p>	<p>2. 2006年までに6テーマの普及プログラムが充実される。(指標明細D)</p>	<p>2. 1. (テーマごとの)カリキュラム ・(テーマごとの) V/C 研修用教材 ・(テーマごとの)漁民研修用教材 ・(テーマごとの)移動教室用視覚教材</p>	
<p>3. V/C を養成するカリキュラム・教材が作成され、V/C の技術能力が向上する。</p>	<p>3-1. V/C を養成する研修プログラム(テーマごと及び基礎研修)が充実される。(指標明細E)</p>	<p>3-1. カリキュラム ・V/C が行う研修評価記録(テーマごと及び基礎研修) ・基礎研修マニュアル</p>	
<p>4. サイトにおいて普及活動が展開される。</p>	<p>3-2. 2005年までに3/4のV/Cが基礎研修及び(テーマごとの)普及プログラム研修を修了する。</p>	<p>3-2. プロジェクトによる研修実績記録</p>	
	<p>4-1. 2004年までに、2/3のV/Cが普及プログラムのテーマに従って、効果的な移動教室を開催できるようになる。(指標明細F)</p>	<p>4-1. V/C 指導報告書 ・プロジェクトによる巡回指導</p>	
	<p>4-2. 2005年までに、6テーマの普及プログラム内容について、担当サイトにおける漁民の意識が向上される。(指標明細G)</p>	<p>4-2. V/C 指導報告書 ・漁民の(テーマごとの)普及プログラム評価記録</p>	
	<p>4-3. 2006年までに、V/Cの計画・実施・モニタリング・評価能力が向上する。(指標明細H)</p>	<p>4-3. 技術現地適応化/女性グループ活動促進進歩計画書の内容 ・V/C 指導報告書 ・プロジェクトによる巡回指導</p>	
	<p>4-4. 2006年までに、技術現地適応化/女性グループ活動促進進歩事業に参加した、漁民の問題解決能力が向上する。(指標明細I)</p>	<p>4-4. 漁民によるグループ活動自己診断記録 ・V/C 指導報告書</p>	

<p>5.普及活動のモニタリング・評価、フィードバックメカニズムが構築される。</p>	<p>5.フィードバックメカニズムが構築される。(措置詳細J)</p>	<p>5. V/C 指導報告書 プロジェクト記録(定例連絡会議議事録) プロジェクト記録(普及システム諮問委員会議事録)</p>	<p>・支局支所、ONP、INRH 等現場の協力が継続的に得られる。 ・V/C が選定したサイトの零細漁民(男女)にプロジェクトが受け入れられる。 ・移動教室用の車両が計画通り提供される。</p>
<p>【活動】 1.漁家調査を実施し、テーマごと(品質管理、海上安全、ジェンダー、漁業資源等)の現状及び問題点を明らかにする。 1-1.ベースライン調査を実施する。 1-2.漁民にニーズに基づいた、普及テーマを選定する。 2.零細漁民(男女)へ普及するテーマごとの普及プログラムを作成する。 2-1.(テーマごとの)カリキュラムを作成する。 2-2.(テーマごとの)V/C 研修用教材を作成する。 2-3.(テーマごとの)漁民研修用の教材を作成する。 2-4.(テーマごとの)移動教室用視聴覚教材を作成する。 3.V/C を育成する。 3-1.(テーマごとの)普及プログラム研修を実施する。 3-2-1.基礎研修のカリキュラムを開発する。 3-2-2.基礎研修テキストを作成する。 3-2-3.基礎研修を実施する。 3-2-4.普及員マニュアルを作成する。 4.担当サイトにおいて普及活動を展開する。 4-1.各 V/C の担当サイトを選定する。 4-2.(テーマごとの)移動教室を開催する。 4-3.漁民をグループ化し、技術現地適応化/女性グループ活動促進化事業を計画する。 4-4.組織運営研修(リーダー・会計、識字教室)を開催する。 4-5.先進地視察研修を実施する。 4-6.グループ活動をモニタリングする。 4-7.漁民によるグループ活動事例発表大会を開催する。 4-8.グループ活動を、漁民及び V/C が自己診断する。</p>	<p>【投入】 ＜モロココ側＞ 1. 人材 (1) 長期カウンターパート 1)プロジェクトダイレクター 2)プロジェクトマネージャー 3)プロジェクト副マネージャー 4)海洋教育社会職業推進局 C/P 5)ララシュ C/P (2) 短期カウンターパート 必要に応じ派遣 2. 施設 日本人専門家の執務室を含む CQPM Larache 全体の施設 3.ローカルコスト プロジェクトの活動に係る経費</p>	<p>＜日本側＞ 1. 人材 (1) 長期専門家 1)チーフアドバイザー 2)業務調整 3)漁民教育 4)水産普及 (2) 短期専門家 必要に応じ派遣 2. カウンターパート研修 年間 2-3 名 3. 機材 (1) 普及用機材 (2) カリキュラム開発用機材 (3) 研修用機材 (4) 視聴覚機材 (5) 移動教室用車両 等 4. ローカルコスト プロジェクトの活動に係る経費</p>	<p>【前提条件】 ・V/C が普及活動を行う時間、移動手段、手当てが確保される。</p>
<p>5.普及活動のモニタリング・評価、フィードバックメカニズムが構築される。</p>	<p>5.フィードバックメカニズムが構築される。(措置詳細J)</p>	<p>5. V/C 指導報告書 プロジェクト記録(定例連絡会議議事録) プロジェクト記録(普及システム諮問委員会議事録)</p>	<p>・支局支所、ONP、INRH 等現場の協力が継続的に得られる。 ・V/C が選定したサイトの零細漁民(男女)にプロジェクトが受け入れられる。 ・移動教室用の車両が計画通り提供される。</p>

別添3：プロジェクト活動概要

《プロジェクト活動概要》

プロジェクト活動概要

大課題	中課題	小課題	責任者	年次														
				2003	2004			2005			2006							
			活動場所	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	
V/C研修事業	①V/C研修用教材作成事業(テキスト) ②普及活動基礎研修事業(コース1) ③テーマ別漁民研修推進事業(コース2) ④移動教室開催事業	小課題	基礎研修(コース1)の開発	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
		普及技術	普及技術(コース2)の開発	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		普及技術	普及技術(コース2)の開発	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		普及技術	普及技術(コース2)の開発	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		普及技術	普及技術(コース2)の開発	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
研修用教材作成事業	①漁民向け研修用教材作成事業(テキスト、ポスター) ②移動教室用教材整備事業 ③普及活動用車両整備事業 ④技術現地適応化事業(移動教室からの問題解決) ⑤女性グループ活動促進支援事業	漁民向け研修用教材作成事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
		移動教室用教材整備事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		普及活動用車両整備事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		技術現地適応化事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		女性グループ活動促進支援事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
普及活動促進支援事業	①普及活動促進支援事業 ②女性グループ活動促進支援事業 ③基礎調査研修事業 ④先進地視察研修事業 ⑤普及活動成果発表事業	普及活動促進支援事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
		女性グループ活動促進支援事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		基礎調査研修事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		先進地視察研修事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		普及活動成果発表事業	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
普及システム整備事業	①普及システム整備委員会開催 ②書籍様式検討、作成システム化 ③定例連絡会開催	普及システム整備委員会開催	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
		書籍様式検討、作成システム化	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		定例連絡会開催	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		普及システム整備委員会開催	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		書籍様式検討、作成システム化	長C/P +短C /P	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

○P=女性推進

「○」=開発
「○」=実施
「●」=評価